

日本藻類学会第 33 回大会開催記・参加記

須田彰一郎：日本藻類学会第 33 回大会開催記

大会参加者は 265 名で、多くの方々にご参加いただき大変有り難うございました。ほとんどの方は遠路はるばるお出でいただき感謝申し上げます。琉球大学が那覇の町中からかなり離れた場所で、交通の便も悪く、天候も晴天続きとは行きませんでした。これらについては力の及ぶ範囲ではなく、ご容赦願えればと思います。前回の沖縄開催（1991 年 3 月 27, 28 日に琉球大学）から 18 年が経過し、初めて沖縄を訪れた参加者の方々も多かったようで、今回の大会で発表するために新たに会員になられた方々も多く、今後とも末永く会員としてご活躍願えれば幸いです。

さて、2009 年 3 月 26 日のワークショップ I（午前 9 時 30 分から 12:30 まで）を皮切りに、編集委員会（午後 3 時から 4 時半）、評議員会（4 時半から 6 時まで）から大会がスタートしました。会場の都合上、大会会場を前もって借りておく余裕が無かったため、私が所属する理学部の会議室と教室を借りておこないました。会場が分かりにくかったようで、ワークショップ I の参加者の皆様、評議員や編集委員の先生方にはご迷惑をおかけいたしました。もっと規模が大きな学会などでは、会場と宿泊に加えて、航空券代などもバックにして、旅行代理店を間に入れてリゾートホテルで大会を開催している場合もあるようです。藻類学会の大会の場合は、それほどの規模にはなっていないことと、年度末の比較的込み合う時期に重なっていたこともあり、早々に会場・宿泊バック計画はあきらめて、琉球大学内での開催を目指しました。残念ながら理学部には 150 名ずつ入れるような 2 会場を準備することができず、今回会場となった法文学部新棟を選定しました。主催者が琉球大学関係者で、前もって書類の提出を行っていたら、会場使用料の一部返還が可能であったようでしたが、気付くのが遅れ結局のところ会場使用料を全額支払うことになりました。それでも実質 3 日間を借受けていても、大会での実際の使用時間のみに限定して書類を出すことを容認してもらい、3 分の 1 程度に使用料を抑えることができました。

2009 年 3 月 27 日、28 日に大会本番となり、口頭発表とポスター発表、終了後に公開シンポジウム（28 日 3 時半から 6 時まで）がありました。さらには、その日の夜から瀬底実験所に宿泊してのワークショップ II が 30 日午前中まであり、また、同時進行で、29 日にはカサノリ生育地へのエクスカージョンもありました。私自身は翌 29 日朝方から瀬底実験所まで行き、ワークショップ II に参加して、エクスカージョンはお任せしました。以上トータルで 5 日間の長丁場でありました。これを会員 2 名（琉球大学 21 世紀 COE 研究員だった加藤亜記さんと私）と研究室の 4 年次学生だった（平塚智子さんと古川陽一君）で準備し、大会が近づいてからは藻類とは関係のない、理学部海洋自然科学科生物系の同僚である伊澤雅子先生（ほ乳類）と傳田哲郎先生（陸

上植物）にもご協力いただいて、アルバイト総勢 25 名をなんとか通常のアルバイトレートより割高にして集めて大会に臨みました。もちろん大会会長の教育学部の松田伸也先生も加わって、編集委員会や評議員会がたぶん白熱した議論を戦わせていた間の時間を利用して 26 日午後から法文学部講義棟新棟の 4 教室と学生ホールを翌日からの藻類学会第 33 回大会の口頭発表会場、ポスター発表会場、受付、喫茶スペース等々に模様替えすべく準備を始めました。学内施設の極低温センターのトラックを借り受け、自ら運転して、ポスターボードを理学部、大学会館、機器分析センターから搬出し、法文部新棟へ搬入して組み立てました。同時に口頭発表会場のスライドプロジェクターの操作に係となるアルバイト学生に工夫して立ち上げてもらいながら、レンタルのパソコンのうち一台が大会までに届かず、個人のものを急遽出したりなど、27 日に無事に大会がスタートできるかを心配しつつへとへとになって大会当日を迎えました。幸い天候は晴れ、暑くもなく、寒くもない爽やかな大会当日で、はるばる海を越えて飛んできていただき、那覇や北谷などにホテルをとった会員の方々が公共交通の乏しい中を続々とおいでいただきました。前々日から大学の 3 カ所の入り口に大会開催の案内板を立て、要所には「会場はこちら」の案内をつけたつもりではありましたが、会場が分かりにくいとご指摘がありました。誠に申し訳ありませんでした。初日は夜になるまで天気も良かったので、ポスター会場も明るく、狭いところではありましたが、活発な討論がなされました（図 1）。

喫茶スペースには大会名誉会長で琉球大学名誉教授の香村眞徳先生から差し入れていただいたサーターアンダーギー（沖縄のお菓子で、揚げドーナツのようなもの）も提供され、ご賞味いただけた方も多いのではないでしょうか。お気遣いには感謝申し上げます。初日の総会後、大学生協で懇親会を催しました（図 2）。



図 1 ポスター発表風景

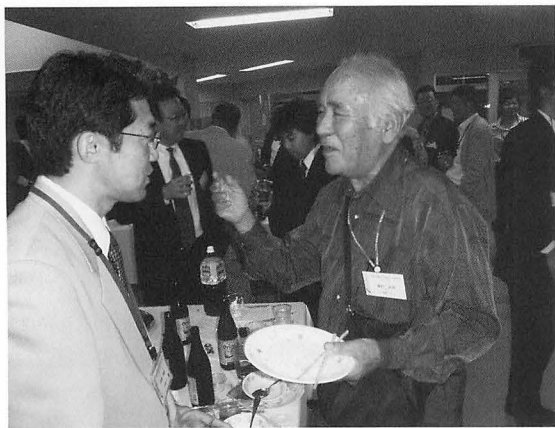


図2 懇親会の様子

恩納村漁協から生モズクをご提供いただいて、モズク天ぷらとモズクコロッケも出してもらいました。こんなモズクの食べ方もあることをお知らせできたのではと考えており、関係各位には感謝申し上げます。生協側の工夫で料理を出すタイミングをずらしていただいたので、最後にも寿司が残っている状況でした。ご満足いただけたでしょうか。残念ながら会も終わりに近づいた頃から雨が降り始め、傘を準備されていなかった方は濡れてお帰りになったようでした。気が回らず申し訳ないことをしました。

28日大会二日目、大きなボカもなく初日を終えられたと、余裕の気持ちで7時過ぎに会場に行くと全て鍵がかけられていました。普段かけないところまでかけられたようで、大慌てで守衛所に駆け込み、鍵を開けてもらいました。何人かスタッフが来たところで喫茶用のお湯の準備をお願いしたところ、ブレーカーが飛んで電気が一切使えなくなりました。土曜日なので職員はいない。どうしたら良いかと右往左往して、これも大慌てで守衛さんをお願いしてブレーカーを見つけてもらいことなきを得ました。二日目はあいにくの雨でかなり寒くなりました。暖かな沖縄を期待して来られた皆様には申し訳ないことになりました。大会の最後には公開シンポジウムとして、「南の海から見える藻類の利用と課題—沖縄県の高藻産業とマリンバイオ産業創出事業」と題して、東京海洋大学の能登谷正浩先生に企画いただいて、沖縄県が昨年立ち上げた「マリンバイオ産業創出事業」の高藻関係者による講演とパネルディスカッションをお願いしました。ご参加いただいた藻類学会関係者のほかにも、外部から聞きにきていただけたようでとりあえず成功といえると思います。公開シンポジウムの最中に、シンポジウム会場を除き撤収作業に入り、会場全部に鍵をかけたのは8時過ぎでした。通常はこれで解散、ご苦勞様でしたとなるのですが、既にワークショップⅡが瀬底実験所で始まっており、翌日なんとか瀬底実験所に行き参加いたしました。

参加者は総勢265名、演題数は口頭発表が75題、ポスター発表が77題、カサノリ特別展示発表というのも企画していただき、水槽を並べた展示が好評でした(図3)。大会の終わり近くには、石川依久子先生自ら、カサノリなど展示していた藻類をビニール袋に入れて、お土産として渡されていました。今更ですが、



図3 カサノリの特別展示

お持ち帰りになった方は、決して自然に放流などしないでください。移入種/侵入種問題になっては本学会の名折れになりますので。

私自身、藻類学会に参加して発表しなかったのは今回が初めてです。今年は夏に国際藻類学会があるので、沖縄に来る人は少なからうと予想していたのですが、見事に裏切られました。幸いハブに咬まれた人も出ず、海で遭難した方も出ませんでした。至らないところだらけの大会ではありましたが、はるばるおいでいただいた参加者の皆様には心より感謝申し上げます。ただ、当分大会開催はご遠慮申し上げます。

実行委員会をやってみての意見を最後に申し上げます。学会のホームページで参加受付等ができるようにした方がよいでしょう。いずれにしても個人のメールアドレスでやるものではありません。参加申込締切を設けている意味があまり無く、締切後の参加申込が多数ありました。無下に断るわけにも行かず受付けてしまいました。また、参加締切と要旨の締切を同じ日にした方が手間は少ないようです。元気なうちは申込メールに逐一対応できましたが、限度がありました。これに対して、同僚は受付メールをもらったのに、自分はどうなったと何度もご心配のメールをもらうことになりました。申し訳ないことになりましたが、こちらのとんでもない状況もご理解いただけたらとため息が出ました。自動受付のメールを返信できるようにすべきでしょう。参加費と懇親会費について、締切後には金額を高く設定して差を付けた方がよいと思います。会員ではない方々の中には、沖縄だからとご参加いただいた向きもあるようで、ホームページでの大会案内など、会員外の方々にも詳しい情報を伝えるように工夫すべきでした。それから、ホームページで要旨を全て見るができるのはまずいと思います。長々と書かせてもらいましたが、これでようやく終わりです。ここでもう一度、遠路はるばるおいでいただいた参加者の皆様、アルバイトスタッフの皆さん、生物系の伊澤、傳田両先生、大会会長をお引き受けいただいた松田伸也先生、いろいろお助けいただいた関係者の皆様、そして大会の準備運営に八面六臂の活躍をしてくれた加藤重記さん、研究室の4年次だった平塚智子さん、古川陽一君に深く感謝申し上げます。

(琉球大学理学部海洋自然科学科)